

**第3四半期のAIGに帰属する純利益は22億ドル、
希薄化後1株当たり利益は1.46ドルと公表**

- 第3四半期のAIGに帰属する税引き後営業利益は14億ドル、1株当たりでは0.96ドル
- 保険事業の営業利益は前年同期比38%増加して22億ドル
 - AIGプロパティ・カジュアリティの保険事故年度の引受が前年同期と比べて改善
 - AIGライフ・アンド・リタイアメントは販売好調と正味でプラスとなった資金フローから恩恵
 - モーゲージ保証保険は、ユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション独自のリスク選択モデルと住宅市場の回復から恩恵
- その他の包括利益累計額(AOCI)を除く1株当たりブック・バリューは2012年末と比べて8%増の62.68ドル、AOCIを含む1株当たりブック・バリューは1%増の67.10ドル

2013年10月31日(ニューヨーク発):アメリカン・インターナショナル・グループ・インク(ニューヨーク証券取引所銘柄:AIG)〔「AIG」〕は、本日、2013年第3四半期のAIGに帰属する純利益が22億ドルになったことを公表しました。これに対して、前年同期の2012年第3四半期は19億ドルでした。2013年第3四半期のAIGに帰属する税引き後営業利益は、前年同期の16億ドルに対し、14億ドルでした。第3四半期にはAIGに帰属する純利益が同税引き後営業利益を上回りました。その主な原因は、キャピタル・ロスの繰越しによる繰延税金資産に関連する評価性引当金が減算されたことによるもので、過去の危機案件についての訴訟損失引当金が税引き後で2.6億ドル増加したことで、一部相殺されました。

2013年第3四半期のAIGに帰属する希薄化後1株当たり利益は、前年同期の1.13ドルに対し、1.46ドルになりました。AIGに帰属する1株当たり税引き後営業利益は、前年同期の0.99ドルに対し、0.96ドルでした。

AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシエは、以下のように述べました。「第3四半期の堅調な業績は、弊社事業のファンダメンタルズがしっかりしていることの表れで、2013年上半年からの勢いに乗ったものです。保険事業の第3四半期の税引き前営業利益は前年同期と比べて改善しており、将来に関する楽観的な見通しは変わっていません。

顧客のニーズに合った革新的な保険商品やリタイアメント関連商品を開発、提供して、世界中の顧客の期待に応えるよう努力していくことを日々再確認しています。私たちは協力し合い、AIGの様々な得意分野を活かしており、弊社の事業、インフラ、人材への継続的な投資の成果を期待しています。弊社は、商品のイノベーション、セールスおよび販売との強力なパートナーシップ、費用に対する警戒感、そして継続的なリスク分散に全力を挙げています。同時にテクノロジー、システム、プロセスの改善を続けていきます。引き続き、当初から繰り返し述べてきたビジョンの実行、つまり、無駄がなく、機敏で透明性の高い会社と職場の構築に取り組んでおり、ここまで進んできたことに満足しています。」

資本および流動性

- 2013年9月30日現在、株主資本は合計で988億ドルとなりました。
- 2013年8月、2013年10月に上位債10億ドルをそれぞれ発行しました。また2013年第3四半期には、5億ドルの債務を償還し、普通株式約400万株を合計約1.92億ドルで買い戻しました。
- 2013年第3四半期におけるAIGプロパティ・カジュアリティおよびAIGライフ・アンド・

リタイヤメント子会社から親会社である AIG への現金配当は、合計 19 億ドルでした。

- 2013 年 9 月 30 日現在の親会社 AIG の流動資金は約 169 億ドルでした。そのうち 127 億ドルは、現金、短期投資、および抵当権が設定されていない満期固定証券でした。

税引き後営業利益
(単位：百万米ドル)

	9 月 30 日までの 3 ヶ月間		
	2013 年	2012 年	増減
税引き前営業利益			
保険事業：			
AIG プロパティ・カジュアリティ	\$1,044	\$786	33 %
AIG ライフ・アンド・リタイヤメント	1,144	826	38
モーゲージ保証保険 (その他の事業に計上)	43	3	NM
保険事業合計	2,231	1,615	38
直接投資	110	428	(74)
グローバル・キャピタル・マーケット	29	190	(85)
AIA の公正価値の増減 (2012 年の実現益を含む)	-	527	(100)
金融受け皿会社 (ML III) の公正価値の増減	-	330	(100)
支払利息	(334)	(416)	(20)
全社費用	(282)	(166)	70
その他	(45)	14	NM
税引き前営業利益	1,709	2,522	(32)
法人税経費	(307)	(896)	(66)
その他非支配的持分	19	(5)	NM
AIG に帰属する税引き後営業利益	\$1,421	\$1,621	(12) %

別途示されていないければ、以下の各事業セグメントにおける比較はいずれも 2012 年第 3 四半期に対するものです。

AIG プロパティ・カジュアリティ
(単位：百万米ドル)

	9 月 30 日までの 3 ヶ月間		
	2013 年	2012 年	増減
正味収入保険料	\$8,660	\$8,712	(1) %
正味既経過保険料	8,427	8,752	(4)
事業損失	(135)	(441)	69
正味投資利益	1,179	1,227	(4)
税引き前営業利益	\$1,044	\$786	33 %
引受に関する比率：			
損害率	67.3	71.4	(4.1) ポイント
取得費率	19.7	19.5	0.2
一般営業費率	14.6	14.1	0.5
コンバインド・レシオ	101.6	105.0	(3.4)
保険事故年度の調整済み損害率	63.7	66.5	(2.8)
保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオ	98.0	100.1	(2.1) ポイント

AIG プロパティ・カジュアリティの税引き前営業利益は、33%増加して 10 億ドルとなりました。これは引受による業績の改善によるものですが、オルタナティブ投資とミューチュアルファンドの収益率の低下によって正味投資利益が減少し、一部相殺されました。異常災害損失および前年の動向を除く、2013 保険事故年度第 3 四半期の調整済みコンバインド・レシオは、高付加価値事業への継続的シフト、リスク選択の強化、保険料率の改善を反映して、2.1 ポイント改善して 98.0 となりました。資本管理に対する継続的な注力の一環として、AIG プロパティ・カジュアリティは 2013 年第 3 四半期に親会社 AIG に 7.16 億ドルの現金配当を支払いました。

2013年第3四半期のコンバインド・レシオは、3.4ポイント改善して101.6となりました。異常災害損失は、2.61億ドルであったのに対し、2.22億ドルとなりました。正味マイナスの影響（保険料調整考慮後）は、前年同期が1.45億ドルであったのに対して、米国コマーシャル・インシュアランス事業を中心に7,200万ドルとなりました。2013保険事故年度第3四半期の調整済み損害率は、66.5から63.7に改善しました。これはAIGの戦略的措置の実行による継続的な効果、保険料率の良好なトレンドを反映していますが、深刻な損失が7,100万ドル増加したことで一部相殺されました。2013年第3四半期の取得費率は、事業構成の変更、成長に的を絞った事業ラインのコスト上昇を反映して、0.2ポイント高の19.7になりました。一般営業費率は、0.5ポイント高の14.6になりました。これは、人件費増加と正味既経過保険料の減少が、貸倒損失の減少とインフラ計画費用の減少によって一部相殺された結果です。

2013年第3四半期の正味収入保険料は、新契約の増加と保険料率の上昇により、為替の影響、超過損害出再保険料の認識時期変更および損失に敏感な保険料の調整を除くと3%増加しました。これらの影響を含む正味収入保険料は、1%減少して87億ドルとなりました。為替の影響、超過損害出再保険料の認識時期変更および損失に敏感な保険料の調整を除くと、コマーシャル・インシュアランス事業およびコンシューマー・インシュアランス事業の2013年第3四半期の正味収入保険料は、それぞれ2%、4%増加しました。コマーシャル・インシュアランス事業は、成長中の高付加価値事業と料率の引き上げに引き続き軸足を置いています。一方コンシューマー・インシュアランス事業は各商品で成長を続けており、マルチ販売チャネル戦略の一環として、ダイレクト・マーケティングを拡大させました。

コマーシャル・インシュアランス事業の引受 (単位：百万米ドル)

	9月30日までの3ヶ月間		
	2013年	2012年	増減
正味収入保険料	\$5,222	\$5,099	2 %
正味既経過保険料	5,142	5,239	(2)
事業損失	\$ (8)	\$ (317)	97 %
引受に関する比率：			
損害率	71.8	78.0	(6.2) ポイント
取得費率	15.8	15.6	0.2
一般営業費率	12.6	12.4	0.2
コンバインド・レシオ	100.2	106.0	(5.8)
保険事故年度の調整済み損害率	66.2	70.8	(4.6)
保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオ	94.6	98.8	(4.2) ポイント

コマーシャル・インシュアランス事業のコンバインド・レシオは、5.8ポイント改善して100.2となりました。2013保険事故年度第3四半期の調整済み損害率は、4.6ポイント改善して66.2となりました。その原因は、リスク選択、料率の規律、エクスポージャー管理、請求処理を強化するための多面的な戦略の実行が、財物保険および特殊リスクにおける深刻な損失の前年同期の1.2億ドルから2.11億ドルへの増加を一部相殺したことにあります。2013年第3四半期の取得費率は、主に事業構成の変更により、0.2ポイント上昇して15.8となりました。一般営業費率は、0.2ポイント高の12.6になりました。この主な原因は、人件費増加と正味既経過保険料の減少とが、貸倒損失の減少によって一部相殺されたことにあります。

コンシューマー・インシュアランス事業の引受

(単位：百万米ドル)

	9月30日までの3ヶ月間		
	2013年	2012年	増減
正味収入保険料	\$3,441	\$3,630	(5) %
正味既経過保険料	3,270	3,473	(6)
事業利益	\$4	\$43	(91) %
引受に関する比率:			
損害率	58.8	58.3	0.5 ポイント
取得費率	26.1	25.7	0.4
一般営業費率	15.0	14.8	0.2
コンバインド・レシオ	99.9	98.8	1.1
保険事故年度の調整済み損害率	58.5	57.7	0.8
保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオ	99.6	98.2	1.4 ポイント

コンシューマー・インシュアランス事業のコンバインド・レシオは、1.1 ポイント上昇して 99.9 となりました。保険事故年度の調整済み損害率は、0.8 ポイント上昇して 58.5 となりました。その主な原因は、個人向け保証の損失が、保険料率および引受の動きを受けた自動車保険および個人向け損害保険の改善によって一部相殺されたことにあります。2013 年第 3 四半期の取得費率は、0.4 ポイント高の 26.1 でした。これは、事業構成の変更と成長に的を絞った事業におけるコスト上昇によるものです。一般営業費率は、人件費が主な原因で 0.2 ポイント上昇しました。

AIG ライフ・アンド・リタイヤメント

(単位：百万米ドル)

	9月30日までの3ヶ月間		
	2013年	2012年	増減
収入保険料および預かり資産	\$8,422	\$4,785	76 %
正味投資利益	2,467	2,597	(5)
税引き前営業利益			
リテール・セグメント	846	548	54
機関投資家セグメント	298	278	7
税引き前営業利益合計	1,144	826	38
運用資産	\$304,399	\$275,479	10 %

AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの税引き前営業利益は、38%増の 11 億ドルになりました。変額年金および個人向けミューチュアルファンドの販売が堅調で、また第 3 四半期には定額年金預かり金も大幅に増加しました。正味の資金フローには引き続き勢いがあり、前年同期から 30 億ドル近く増加しました。資金フローの増加と勘定残高の増加により、手数料収入が増加しました。AIG ライフ・アンド・リタイヤメントが積極的なスプレッド管理戦略を継続したことも業績にプラスとなりました。これらの改善を相殺した要因は、オルタナティブ投資の収益率の低下と、過去最低水準の市場金利による影響で、正味投資利益が小幅減少したことです。税引き前営業利益には、見積り総利益の前提見直しに関連する 1.18 億ドルの最終的なプラスの調整も反映されています。これに対して前年同期は、引当金関連およびその他項目の 1.96 億ドルの費用を反映していました。

正味投資利益は、5%減の 25 億ドルになりました。この主な要因となったのは、オルタナティブ投資の収益率低下と、基礎利回りの低下、コールおよびテンダーの利益を含む利回りの向上です。基礎投資利回りは、前年同期の 5.38%から 5.26%に低下しました。これは、現在の金利環境と、過去 12 ヶ月間の資産再投資利回りが、ポートフォリオ全体の加重平均利回りを下回ったことを反映したものです。AIG ライフ・アンド・リタイヤメントは引き続き、既存のスプレッド事業の保証利率に関する動きや、新契約の規律に則った料率設定を通じて収益性を積極的に管理しました。これまでの四半期と同様に、キャピタル・ロス繰越しの有効活用に関連して、満期固定投資ポートフォリオ

で大幅なキャピタル・ゲインを計上しました。またこのような売却収入の再投資により、基礎投資利回りは低下しました。

運用資産は、10%増加して 3,040 億ドルになりました。正味の資金フローと勘定評価額も、前年同期を大きく上回りました。増加の要因となったのは、革新的で競争力のある商品設計、有利な市場の状況、さらに AIG ライフ・アンド・リタイアメントのいくつかの戦略的販売会社への浸透により、リテール商品の需要が増えたことです。株式市場の好調な推移によって、勘定評価額がさらに押し上げられました。ステーブル・バリュー・ラップ契約の安定した動向も、運用資産の大幅な増加の要因となりました。金利上昇の影響で AIG ライフ・アンド・リタイアメントの売却可能有価証券の評価益が減少して、運用資産の増加が一部帳消しになりました。

収入保険料および預かり資産は、76%増の計 84 億ドルになりました。これを牽引したのは、個人向けの変額年金、ミューチュアルファンド、定額年金などの運用型商品の販売増加でした。リタイアメント・インカム・ソリューション事業と個人向けミューチュアルファンド事業の収入保険料および預かり資産は、それぞれ 133%、121%増加しました。第 3 四半期の定額年金の販売高は、1.73 億ドルから増加して合計 12 億ドル近くに達しました。

リテール・セグメントの 2013 年第 3 四半期の税引き前営業利益は、54%増加して 8.46 億ドルとなりました。これは、変額年金分離勘定資産の手数料収入の増加、金利に敏感な商品に対する積極的なスプレッド管理、見積り総利益の前提の更新を反映した調整による正味プラスの影響によるものです。

機関投資家セグメントの 2013 年第 3 四半期の税引き前営業利益は、7%増加して 2.98 億ドルとなりました。これは、手数料収入の増加と、積極的なスプレッド管理による保証利率の低下が、正味投資収益の減少と見積り総利益の前提の更新を反映した調整によるマイナスの影響で相殺されたことによるものです。前年同期と比べて増加した一因は、保証投資契約関連の費用です。

2013 年第 3 四半期に AIG ライフ・アンド・リタイアメントが親会社 AIG に供与した現金配当は 12 億ドルでした。

モーゲージ保証保険

(単位：百万米ドル)

	9 月 30 日までの 3 ヶ月間		
	2013 年	2012 年	増減
新規引受契約	\$14,437	\$10,741	34 %
正味収入保険料	272	219	24
正味既経過保険料	204	177	15
事業利益 (損失)	11	(35)	NM
正味投資利益	32	38	(16)
税引き前営業利益	\$43	\$3	NM %

ユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション (UGC) は、前年同期の 300 万ドルの税引き前営業利益に対して、2013 年第 3 四半期には 4,300 万ドルの税引き前営業利益を計上しました。2013 年第 3 四半期業績には、UGC のリスクに基づく料率設定引受アプローチを用いた 2008 年以降に引き受けた契約の正味既経過保険料の増加と、第一抵当権付契約の最低準備金の動向が反映されています。

正味収入保険料は 24%増の 2.72 億ドルとなりました。第一抵当権付保険契約の新規引受け (保険付き融資元本) は、34%増の 144 億ドルとなりました。その理由は、貸手の増加によって UGC のリスクに基づく料率設定モデルが市場に受け入れられたこと、また販売チャネルの追加および拡大でした。高い質を保ち、平均 FICO スコアは 752、平均借入金比率は 92%でした。

その他の事業

AIG のその他の事業（モーゲージ保証保険を除く）の 2013 年第 3 四半期の税引き前営業損益は、前年同期の 8.51 億ドルの利益に対して、5.83 億ドルの損失となりました。これには、主にスーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ・ポートフォリオに関連する未実現評価益の減少に起因するグローバル・キャピタル・マーケットの利益の減少が含まれています。直接投資も税引き前営業利益の減少の要因となりました。これは、公正価値オプションが選択された資産・負債に対する正味信用評価調整の減少によるものです。

前年同期の業績には、金融受け皿会社の Maiden Lane III LLC および AIA グループ・リミテッドにおける持分に関する税引き前正味評価益 8.57 億ドルが算入されています。

カンファレンス・コール

AIG は、2013 年 11 月 1 日金曜日午前 8 時（米東部時間）より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト (<http://www.aig.com/>) でリアルタイムで聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

#####

AIG の補足財務情報は、ウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向けセクションでご覧いただけます。

将来情報に関する警告的記述

カンファレンス・コール（カンファレンス・コールのプレゼンテーション資料を含みます）、決算報告、補足財務情報には、1995 年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測、目標、仮定および見解が含まれている場合があります。これらの予測、目標、仮定および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関する AIG の考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実で AIG が制御できないものです。これらの予測、目標、仮定および見解には、「考える」、「予想する」、「期待する」、「意図する」、「計画する」、「みなす」、「目標とする」、「見積もる」などの言葉が前後にくる、あるいは含まれる記述が含まれます。これらの予測、目標、仮定および見解には以下のものが含まれます。インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション（ILFC）に対する AIG 持分の現金化（これには最大で 90% の ILFC に対する持分の売却が完了しているかどうか、完了している場合には、かかる売却の時期と最終的な条件が含まれます。）、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体、ソブリン債の発行体に対する AIG のエクスポージャー、欧州の政府および金融機関に対する AIG のエクスポージャー、AIG のリスク管理戦略、AIG による配置可能な資本の創出、AIG の株主資本利益率および 1 株当たり利益の長期の意欲的な目標、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関する AIG の戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関する AIG の戦略、そして AIG 子会社の収入およびコンバインド・レシオなどを考慮に入れることがあります。AIG の実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解、目標、仮定および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIG の実際の業績が、特定の予測、目標、仮定や見解の値から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、市場環境の変化、天災および人災による異常災害の発生、重要な法的手続き、貯蓄貸付持株会社、システム上重要な金融機関、およびグローバルなシステム上重要な保険会社として、AIG が対象となる新たな規制の枠組みの導入時期および適用要件、AIG の投資ポートフォリオにおける集中、格付け機関の動向、損害保険の引受けおよび保険債務に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、2013 年 9 月 30 日末の AIG のフォーム 10-Q による四半期報告書のパート I 項目 2（「経営陣による財務状況と業績の検討および分析（MD&A）」）、2013 年 6 月 30 日末の AIG のフォーム 10-Q による四半期報告書のパート I 項目 1A（「リスク要因」）、ならびにパート II 項目 7 でとりあげられている事項などがあります。AIG は、書面または口頭にかかわらず、見解、目標、仮定やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

#####

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースでは、最も意味があり、最も良く表し、最も透明性が高いと考えられる

方法で財務状態および業績を示しています。一部の数値には、証券取引委員会の規則および規制による「非 GAAP 型の財務数値」が用いられています。GAAP とは「米国において一般に認められた会計原則」のことです。AIG が表示する非 GAAP 型の財務数値を、他の企業が公表している同様の名称の数値と比較することはできません。本リリース中の関連した表、あるいは AIG のウェブサイト (www.aig.com) の投資家向けセクションで閲覧可能な 2013 年第 3 四半期補足財務情報には、非 GAAP 型の財務数値から規定 G に基づく最も GAAP に類似した数値への調整が示されています。

その他の包括利益（損失）累計額（AOCI）を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、AIG の 1 株当たりの純資産額を示すために用いられています。AOCI を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、売却可能有価証券ポートフォリオの公正価値や外貨換算調整など期間によって大幅に変動することがある非現金項目の影響を除外しているため、投資家にとって有益な指標だと考えます。AOCI を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、AOCI を除く株主資本合計を、発行済み普通株式数で除したものです。

AIG は、継続事業の基本的な収益性と、AIG および事業セグメントのトレンドをより良く理解することができるため、以下の業績指標を用いています。これらによって競合する保険会社との比較がより有意義なものになると考えています。

AIG に帰属する税引き後営業利益（損失）は、AIG に帰属する純利益（損失）から以下の項目を除きます。これは、非継続事業の利益（損失）、事業および資産の売却による純損失（利益）、事業売却による利益、主に不確実な税務ポジションの変更に関連する従来の税務調整およびその他の税金に係る調整、「過去の危機に関する問題」についての訴訟損失引当金（和解金）、繰延税金評価引当金（減算）、生前給付債務をヘッジするための AIG ライフ・アンド・リタイアメントの満期固定債券の公正価値の変動（支払利息を除く）、給付積立金の増減と繰延保険獲得費用（DAC）、獲得事業価値（VOBA）、正味実現キャピタル・（ゲイン）ロスに関連する販売促進資産（SIA）の価値、負債の償却損（益）、正味実現キャピタル・（ゲイン）ロス、また正味実現キャピタル・（ゲイン）ロスを除く要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引、割引購入の利益です。「過去の危機に関する問題」には、2008 年 9 月の流動性危機につながる出来事、ならびにこの結果生じた出来事に関連する有利な、および不利な和解、またかかる法的事項に関連する原告として AIG が負担した弁護士費用が含まれます。AIG に帰属する純利益の AIG に帰属する税引き後営業利益への調整については、12 ページを参照してください。

AIG プロパティ・カジュアリティの税引き前営業利益（損失）には、事業利益（損失）、正味投資利益が含まれますが、正味実現キャピタル（ゲイン）ロス、その他（収入）費用、上述の過去の危機に関する問題に関連する訴訟和解金、割引購入の利益は含まれません。事業利益（損失）は、正味既経過保険料から、請求および請求調整費用、取得費用、一般営業費を差し引いたものです。

AIG プロパティ・カジュアリティは、ほとんどの損害保険会社と同様に、引受の成果を示す指標として損害率、経費率、コンバインド・レシオを用いています。これらの比率は相対的な指標で、正味既経過保険料 100 ドルに対する請求および請求調整費用と負担するその他引受費用を示しています。コンバインド・レシオが 100 を下回る場合は事業利益、100 を超える場合は事業損失を示します。訴訟活動の程度と同様に、引受環境は国や商品によって異なり、そのすべてがこれらの比率に影響を及ぼします。さらに投資利益、現地税、資本コスト、規制、商品の種類、競争が、料率、その結果、事業利益および関連比率に反映されているように収益性に影響を及ぼします。

AIG プロパティ・カジュアリティの保険事故年度の調整済み損害率、ならびに調整済みコンバインド・レシオはいずれも、異常災害損失、関連する復活保険料、前年の動向、保険料調整の控除、準備金の割引による影響を除外したものです。異常災害損失はほとんどが天候や地震に関する出来事で、AIG プロパティ・カジュアリティへの正味での影響はそれぞれ 1,000 万ドルを超えました。

AIG ライフ・アンド・リタイアメントの税引き前営業利益（損失）は、税引き前利益（損失）から次の項目を除外したものです。これは、上述の過去の危機に関する問題に関連する訴訟和解金、生前給付債務をヘッジするための満期固定証券の公正価値の変動（支払利息を除く）、正味実現（利益）損失、給付積立金の変動、正味実現（利益）損失に関連する DAC、VOBA、SIA です。

AIG ライフ・アンド・リタイアメントの収入保険料、預かり資産には、従来型生命保険契約での受取額、団体給付契約、生存依存型年金の預かり資産、およびユニバーサル生命保険、投資型年金契約、保証投資契約、ミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。

その他の事業の税引き前営業利益（損失）は、上述の過去の危機に関する問題に関連する特定の法定責任準備金（訴訟和解金）、債務消滅における（利益）損失、正味実現キャピタル（ゲイン）ロス、事業および資産の売却の純（利益）損失、事業売却の利益を除く税引き前利益（損失）です。

非継続事業の業績は、これらすべての数値から除外されています。

#####

AIG グループは、世界の保険業界のリーダーであり、130 以上の国で顧客にサービスを提供している。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して個人・法人のお客様に損害保険商品・サービスを提供している。このほか、米国においては生命保険事業、リタイアメント・サービスの事業も展開している。持株会社 AIG, Inc. はニューヨークおよび東京の各証券取引所に上場している。

AIG, Inc. の追加情報については www.aig.com | You Tube : www.youtube.com/aig | Twitter : @AIG_LatestNews | LinkedIn : <http://www.linkedin.com/company/aig> | を参照されたい。

AIG とは、AIG, Inc. 傘下の全世界の損害保険、生命保険、リタイアメント・サービス事業ならびに一般的な保険事業のマーケティング名である。より詳細な情報については当社のホームページ (www.aig.com) を参照されたい。全ての商品およびサービスは AIG, Inc. 傘下の子会社または関連会社により引き受けまたは提供されている。これら商品およびサービスは一部の国では利用できない可能性があり、実際の契約に準拠する。保険以外の商品・サービスは、独立した第三者によって提供されることがある。一部の損害保険の補償については、サープラス・ラインの保険会社によって提供される可能性がある。サープラス・ラインの保険会社は、一般的に米国州政府保証基金に加入しないため、当該基金による保証は行われない。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	9月30日までの3ヶ月間			9月30日までの9ヶ月間		
	2013年	2012年	増減(%)	2013年	2012年	増減(%)
AIG プロパティ・カジュアリティの事業：						
正味収入保険料	\$ 8,660	\$ 8,712	(0.6) %	\$ 26,360	\$ 26,627	(1.0) %
正味既経過保険料	8,427	8,752	(3.7)	25,332	26,260	(3.5)
請求および請求調整費用	5,669	6,252	(9.3)	16,761	18,240	(8.1)
取得費用	1,664	1,709	(2.6)	5,023	5,199	(3.4)
一般営業費用	1,229	1,232	(0.2)	3,677	3,659	0.5
事業損失	(135)	(441)	69.4	(129)	(838)	84.6
正味投資利益	1,179	1,227	(3.9)	3,847	3,603	6.8
税引き前営業利益	1,044	786	32.8	3,718	2,765	34.5
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	(12)	161	NM	73	49	49.0
その他の利益 (費用) - 純額	(3)	2	NM	10	6	66.7
税引き前利益	\$ 1,029	\$ 949	8.4	\$ 3,801	\$ 2,820	34.8
損害率	67.3	71.4		66.2	69.5	
取得費率	19.7	19.5		19.8	19.8	
一般営業費率	14.6	14.1		14.5	13.9	
コンパインド・レシオ	101.6	105.0		100.5	103.2	
AIG ライフ・アンド・リタイアメントの事業：						
収入保険料の売上	\$ 721	\$ 584	23.5	\$ 1,990	\$ 1,830	8.7
保険証券発行手数料	645	580	11.2	1,883	1,731	8.8
正味投資利益	2,467	2,597	(5.0)	7,981	8,003	(0.3)
その他の利益	443	319	38.9	1,255	935	34.2
収入合計	4,276	4,080	4.8	13,109	12,499	4.9
給付および費用	3,132	3,254	(3.7)	9,420	9,429	(0.1)
税引き前営業利益	1,144	826	38.5	3,689	3,070	20.2
訴訟和解金	-	-	NM	467	-	NM
生前給付債務をヘッジするための満期固定証券の公正価値の変動、支払利息を除く	(30)	(3)	NM	(128)	48	NM
給付金積立金の変動と、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する DAC、VOBA、SIA	(271)	(604)	55.1	(1,482)	(1,120)	(32.3)
正味実現キャピタル・ゲイン(a)	398	670	(40.6)	1,984	530	274.3
税引き前利益	\$ 1,241	\$ 889	39.6	\$ 4,530	\$ 2,528	79.2
その他の事業、税引き前営業利益 (損失)	(540)	854	NM	(493)	3,864	NM
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前 税引き前利益 (損失)	(1,021)	844	NM	(1,376)	3,108	NM
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	(104)	47	NM	107	403	(73.4)
税引き前営業利益 (損失) 関連の会社間連結・消去調整	62	52	19.2	115	(9)	NM
営業外利益 (損失) (正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) を含む) 関連の会社間連結・消去調整(a)	(28)	(223)	87.4	(19)	(157)	87.9
継続事業の税引き前利益	1,179	2,558	(53.9)	7,158	8,693	(17.7)
タックス・エクスペンス (税額控除)	(993)	734	NM	123	1,324	(90.7)
継続事業の純利益	2,172	1,824	19.1	7,035	7,369	(4.5)
非継続事業の利益 (損失)、税引き後	(42)	37	NM	84	280	(70.0)
純利益	2,130	1,861	14.5	7,119	7,649	(6.9)
控除：						
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益：						
議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い受益権	-	-	NM	-	208	NM
その他	(40)	5	NM	12	45	(73.3)
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益 (損失) 合計	(40)	5	NM	12	253	(95.3)
AIG に帰属する純利益	\$ 2,170	\$ 1,856	16.9 %	\$ 7,107	\$ 7,396	(3.9) %

財務ハイライト (続き)

	9月30日までの3ヶ月間			9月30日までの9ヶ月間		
	2013年	2012年	増減(%)	2013年	2012年	増減(%)
AIG に帰属する純利益	\$ 2,170	\$ 1,856	16.9 %	\$ 7,107	\$ 7,396	(3.9) %
AIG に帰属する税引き後営業利益の調整 (税引き後の値)						
非継続事業の利益 (損失)、税引き後	42	(37)	NM	(84)	(280)	70.0
事業売却の純損失	-	-	NM	31	2	NM
不確実な税務ポジションおよびその他の税金の調整	36	12	200.0	726	343	111.7
過去の危機に関する問題に関連する訴訟損失引当金 (和解金)	260	5	NM	(61)	482	NM
繰延税金資産評価引当金減算	(1,159)	(219)	(429.2)	(2,697)	(1,795)	(50.3)
生前給付債務をヘッジするための AIG ライフ・アンド・リタイアメントの満期固定証券の公正価値の変動、支払利息を除く	19	2	NM	83	(31)	NM
給付積立金の増減と、正味実現キャピタル・(ゲイン) ロスに関連する DAC、VOBA、SIA	176	393	(55.2)	1,065	729	46.1
負債の償却損	52	-	NM	298	6	NM
正味実現キャピタル・ゲイン	(175)	(386)	54.7	(1,410)	(489)	(188.3)
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引の利益、正味実現キャピタル・ゲインを除く	-	(5)	NM	-	(18)	NM
AIG に帰属する税引き後営業利益	<u>\$ 1,421</u>	<u>\$ 1,621</u>	(12.3)	<u>\$ 5,058</u>	<u>\$ 6,345</u>	(20.3)
普通株式 1 株当たり利益 (損失) :						
基本						
継続事業の利益	\$ 1.50	\$ 1.11	35.1	\$ 4.76	\$ 4.05	17.5
非継続事業の利益 (損失)	(0.03)	0.02	NM	0.06	0.16	(62.5)
AIG に帰属する純利益	<u>\$ 1.47</u>	<u>\$ 1.13</u>	30.1	<u>\$ 4.82</u>	<u>\$ 4.21</u>	14.5
希薄化後 :						
継続事業の利益	\$ 1.49	\$ 1.11	34.2	\$ 4.74	\$ 4.05	17.0
非継続事業の利益 (損失)	(0.03)	0.02	NM	0.06	0.16	(62.5)
AIG に帰属する純利益	<u>\$ 1.46</u>	<u>\$ 1.13</u>	29.2	<u>\$ 4.80</u>	<u>\$ 4.21</u>	14.0
AIG の希薄化後株式に帰属する税引き後営業利益	\$ 0.96	\$ 0.99	(3.0) %	\$ 3.41	\$ 3.61	(5.5)
加重平均発行済み株式数 :						
基本 :	1,475.1	1,642.5		1,476.0	1,758.0	
希薄化後 :	1,485.3	1,642.5		1,481.4	1,758.0	
普通株式 1 株当たりブック・バリュー (b)				\$ 67.10	\$ 68.87	(2.6)
その他の包括利益累計額を除く普通株式 1 株当たりブック・バリュー (c)				\$ 62.68	\$ 60.59	3.4 %
株主資本利益率 (d)	8.8%	7.2%		9.6%	9.6%	
その他の包括利益累計額を除く株主資本利益率 (e)	9.5%	8.0%		10.7%	10.5%	
株主資本利益率-税引き後営業利益 (f)	6.2%	7.0%		7.6%	9.0%	

財務ハイライト特記事項

* 規定 G に従った調整を含んでいます。

- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない、為替差損益を含むヘッジ取引からの利益 (損失) を含んでいます。
- AIG 株主資本合計を発行済み普通株式数で割ったものを示しています。
- その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 株主資本合計を発行済み株式で割ったものを示しています。
- AIG に帰属する実際または年間の純利益 (損失) を、AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。
- AIG に帰属する実際または年間の純利益 (損失) を、その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。
- 実際または年間の税引き後営業利益を、その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。